

**2013 年 IEEE 関西支部  
総会資料**

**2013 年 2 月 12 日  
IEEE 関西支部**



## 総会資料目次

<b>Program</b>	<b>p.1</b>
<b>I. 2013 年関西支部役員・理事</b>	<b>p.2</b>
<b>II. 2013 年 Kansai Chapter 役員</b>	<b>p.5</b>
<b>III. 2012 年活動報告</b>	<b>p.7</b>
<b>IV. 関西支部会員数</b>	<b>p.24</b>
<b>V. 2013 年活動計画</b>	<b>p.27</b>
<b>VI. 2012 年会計報告</b>	<b>p.34</b>
<b>VII. 2013 年予算案</b>	<b>p.35</b>
<b>VIII. 関西支部 BYLAWS 修正箇所</b>	<b>p.36</b>
<b>IX. 受賞者</b>	<b>p.37</b>
<b>X. IEEE KANSAI SECTION BYLAWS</b>	<b>p.38</b>

## 2013 年 IEEE 関西支部総会 Program

1. 日時： 2013 年 2 月 12 日（火） 15 時 00 分～17 時 00 分
2. 場所： キャンパスプラザ京都 5 階 第一講義室  
〒600-8216 京都市下京区西洞院通塩小路下る
3. 総会スケジュール
  1. 支部長挨拶
  2. 役員・理事紹介
  3. 2012 年活動報告および 2013 年活動計画
  4. 2012 年会計報告および 2013 年予算案
  5. 本部組織改編に伴う関西支部 BYLAWS 修正について
  6. Chapter 役員および活動紹介  
<休憩>
  7. IEEE 関西支部 GOLD 賞授賞式
  8. IEEE 関西支部学生研究奨励賞授賞式
  9. IEEE 関西支部メダル授賞式
  10. 閉会の挨拶

## I 2013 年関西支部役員・理事

### Section Officers

Chair:	小野寺 秀俊	(京都大学)
Vice Chair:	上田 修功	(日本電信電話)
Secretary :	山田 武士	(日本電信電話)
Treasurer:	須山 敬之	(日本電信電話)

### 理事 (Committee Chairs)

MDC Chair:	小倉 武	(立命館大学)
NC Chair:	杉江 俊治	(京都大学)
SAC Chair:	梶川 嘉延	(関西大学)
TPC Chair:	田邊 信二	(三菱電機)
AC Chair:	楠本 真二	(大阪大学)
COC Chair:	尾上 孝雄	(大阪大学)

### 理事 (Past Officers, Past Committee Chairs)

Past Chair:	片桐 滋	(同志社大学)
Past Vice Chair:	矢野 厚	(住友電気工業)
Past Secretary/Treasurer:	村瀬 亨	(住友電気工業)
Past NC Chair	山本 裕	(京都大学)
Past TPC Chair	中谷 智広	(日本電信電話)

### Committee Officers

#### a. Membership Development Committee:

Chair:	小倉 武	(立命館大学)
Secretary:	熊木 武志	(立命館大学)
Member:	長岡 宏	(オムロン)
	平田 嘉裕	(住友電気工業)
	勝山 豊	(大阪府大)
	浅井 明	(パナソニック)
	村松 純	(日本電信電話)
	宮本 雅之	(シャープ)
	佐々木 鉄雄	(関西電力)
	貝原 俊也	(神戸大学)

太田 快人	(京都大学)
小林 浩	(三菱電機)
岡 育夫	(大阪市立大学)
中島 雅美	(ルネサス エレクトロニクス)
木村 啓明	(ローム)
棚橋 成夫	(京セラ)
加藤 貴敏	(村田製作所)

**b. Nominations Committee:**

Chair:	杉江 俊治	(京都大学)
Member:	浅田 稔	(大阪大学)
	奥乃 博	(京都大学)
	大村 泰久	(関西大学)
	杉浦 博明	(三菱電機株式会社)

**c. Student Activities Committee:**

Chair:	梶川 嘉延	(関西大学)
Member:	宮本 伸一	(大阪大学)
	久門 尚史	(京都大学)
	和泉 慎太郎	(神戸大学)
	芳賀 博英	(同志社大学)
	市川 昊平	(奈良先端科学技術大学院大学)
	小橋 昌司	(兵庫県立大学)
	泉 知論	(立命館大学)
	花田 良子	(関西大学)

**d. Technical Program Committee:**

Chair:	田邊 信二	(三菱電機)
Vice Chair:	程 俊	(同志社大学)
Secretary:	中根 和彦	(三菱電機)

**e. Awards Committee:**

Chair:	楠本 真二	(大阪大学)
Member:	飯田 元	(奈良先端科学技術大学院大学)

太田 能	(神戸大学)
大橋 正治	(大阪府立大学)
杉山 久佳	(大阪市立大学)
黒江 康明	(京都工芸繊維大学)
土屋 達弘	(大阪大学)
中村 匡秀	(神戸大学)
野口 拓	(立命館大学)
山田 晃久	(シャープ)
太田 正哉	(大阪府立大学)
榎木 哲夫	(京都大学)
杉原 浩平	(三菱電機)
藤川 和利	(奈良先端科学技術大学院大学)
三好 誠司	(関西大学)
村田 英一	(京都大学)

f. Chapter Operations Committee:

Chair:	尾上 孝雄	(大阪大学)
Secretary:	橋本 昌宜	(大阪大学)
Member:	浅田 稔	(大阪大学)
	浦岡 行治	(奈良先端科学技術大学院大学)
	藤島 実	(広島大学)
	沼 昌宏	(神戸大学)
	前田 忠彦	(立命館大学)
	熊澤 宏之	(大阪産業大学)
	富山 宏之	(立命館大学)
	石川 容平	(京都大学)
	野田 進	(京都大学)
	中村 篤	(日本電信電話)
	坂本 直史	(ルネサス ソリューションズ)
	杉本 謙二	(奈良先端科学技術大学院大学)

g. Life Members Affinity Group:

Chair:	小山 正樹	(奈良先端科学技術大学院大学)
Vice Chair:	橋本 正弘	(大阪電気通信大学)
Secretary:	木戸出 正継	(奈良先端科学技術大学院大学)

## II 2013 年 Kansai Chapter 役員

### EDS (Electron Devices Society) Kansai Chapter:

Chair:	浦岡 行治	(奈良先端科学技術大学院大学)
Vice Chair:	中村 孝	(ローム)
Secretary:	前元 利彦	(大阪工業大学)
Treasurer:	中原 健	(ローム)

### SSCS (Solid State Circuits Society) Kansai Chapter:

Chair:	藤島 実	(広島大学)
Vice Chair:	日高 秀人	(ルネサス エレクトロニクス)
Secretary:	吉田 毅	(広島大学)
Treasurer:	甲斐 康司	(パナソニック)

### CASS (Circuits and Systems Society) Kansai Chapter:

Chair:	沼 昌宏	(神戸大学)
Vice Chair:	黒江 康明	(京都工芸繊維大学)
Secretary:	和田 昌浩	(甲南大学)
Treasurer:	越智 裕之	(京都大学)

### APS (Antennas and Propagation Society) Kansai Chapter:

Chair:	前田 忠彦	(立命館大学)
Vice Chair:	多賀 登喜雄	(関西学院大学)
Secretary:	山本 温	(パナソニック)
Treasurer:	塩見 英久	(大阪大学)

### COMS (Communications Society) Kansai Chapter:

Chair:	熊澤 宏之	(大阪産業大学)
Vice Chair:	岡田 実	(奈良先端科学技術大学院大学)
Secretary:	東野 武史	(奈良先端科学技術大学院大学)
Treasurer:	熊本 和夫	(大阪工業大学)

### CS (Computer Society) Kansai Chapter:

Chair:	富山 宏之	(立命館大学)
Vice Chair:	岡田 吉生	(日本 IBM)



Vice Chair:	南出 英明	(三菱電機)
Secretary:	井上 昭彦	(パナソニック)
Treasurer:	泉 知論	(立命館大学)

**MTTS (Microwave Theory and Techniques Society) Kansai Chapter:**

Chair:	石川 容平	(京都大学)
Vice Chair:	石崎 俊雄	(龍谷大学)
Secretary:	堀井 康史	(関西大学)
Secretary:	上田 哲也	(京都工芸繊維大学)
Treasurer:	北沢 祥一	(国際電気通信基礎技術研究所)

**PHOS (Photonics Society (formerly LEOS)) Kansai Chapter:**

Chair:	野田 進	(京都大学)
Vice Chair:	伊東 一良	(大阪大学)
Secretary:	杉立 厚志	(三菱電機)
Treasurer:	加藤 友章	(日本電気)

**SPS (Signal Processing Society) Kansai Chapter:**

Chair:	中村 篤	(日本電信電話)
Vice Chair:	澤田 宏	(日本電信電話)
Secretary:	堀 貴明	(日本電信電話)
Treasurer:	戸田 智基	(奈良先端科学技術大学院大学)

**CES (Consumer Electronics Society) Kansai Chapter:**

Chair:	坂本 直史	(ルネサス ソリューションズ)
Vice Chair:	吉田 明子	(シャープ株式会社)
Secretary:	長谷 智弘	(龍谷大学)
Treasurer:	長谷 智弘	(龍谷大学)

**CSS (Control Systems Society) Kansai Chapter:**

Chair:	杉本 謙二	(奈良先端科学技術大学院大学)
Vice Chair:	萩原 朋道	(京都大学)
Secretary:	小木曾 公尚	(奈良先端科学技術大学院大学)
Treasurer:	蛸原 義雄	(京都大学)

### Ⅲ 2012年 活動報告

#### 1. 総会

2012年2月14日(火)に住友ビルディング12階中会議室において2012年総会を開催した。GOLD賞授賞式、学生研究奨励賞授賞式、2012年新Fellow昇格者2名の紹介を行い、新Fellowの方による記念講演等を実施した。  
参加者：42名

#### 2. 理事会

- 第1回理事会 1月16日 住友ビルディング 出席者：11名  
・2012年総会について
- 第2回理事会 2月14日 住友ビルディング 出席者：9名  
・2012年総会について ・JCのSection支援費について
- 第3回理事会 5月11日 住友ビルディング 出席者：12名  
・R10総会報告 ・2012年第1回Japan Council理事会報告  
・ENC Chair選出 ・TTJ対応確認 ・MDC/SAC合同Meeting報告
- 第4回理事会 6月29日 住友ビルディング 出席者：12名  
・IEEE関西支部2012年活動中間報告 ・ENC Committee選出  
・LMAG設立が承認されたことについて ・TTJ対応報告 ・経理状況報告
- 第5回理事会 9月10日 住友ビルディング 出席者：11名  
・Japan Council選挙について ・関西支部次期役員公示について  
・関西支部受賞応募募集について ・Section支援費減額案について  
・LMAG総会と活動計画について ・英語プレゼン大会費用支援について  
・JC/LRSCでの支部Chapterへの移行について
- 第6回理事会 12月19日 住友クラブ 出席者：17名  
・後任役員紹介 ・GOLD賞/学生研究奨励賞について受賞者選定  
・各Committee活動状況報告 ・2012年活動報告/2013年活動計画  
・2012会計状況報告/2013予算案 ・Japan Council理事会要旨報告  
・LMAG合同懇親会

#### 3. 関西支部主催講演会

Technical Program Committeeの企画により以下の関西支部主催講演会を実施した。詳細は4-d項に示す。

##### 関西支部主催第67回技術講演会

日時：2012年1月25日(水) 14:00~16:50

題目：「グローバル／サイバーフィジカル時代の技術戦略」

関西支部主催第 68 回技術講演会

日時：2012 年 3 月 16 日（金） 16:00～17:30

題目：「IEEE Control Systems Society (CSS) Kansai Chapter 設立記念講演会」

関西支部主催第 69 回技術講演会

日時：2012 年 4 月 2 日（月） 15:30～17:15

題目：「CREST Symposium on Human-Harmonized Information Technology」

関西支部主催第 70 回技術講演会

日時：2012 年 4 月 3 日（火） 14:00～15:15

題目：「Compressive Sensing in Practice」

関西支部主催第 71 回技術講演会

日時：2012 年 7 月 20 日（金） 10:30～11:30

題目：「A Case Study of IT Convergence: Multi Mode/Band Transceiver」

関西支部主催第 72 回技術講演会

日時：2012 年 8 月 2 日（木） 13:00～14:00

題目：「Humanitarian Technology Activities」

#### 4. 各 Committee 活動

##### a. Membership Development Committee

2012 年は、4 月、10 月と MDC & SAC Work shop を開催した。主に MDC、及び SAC に参加している委員の組織を通して、IEEE 活動の利点を広く周知し、新卒者の学生会員から正会員への移行をスムーズに行わせるとともに、Senior Member への upgrade を推進することを活動の中心とした。また、SAC と連携し、大学院生を中心とした学生会員の増加に力を入れた。

- (1) 12 月 14 日現在、会員数は 2,372 名となった（IV 関西支部会員数参照）。昨年度同時期（2,316 名）と比べて、大きく上回る会員の確保を実現した。
- (2) 5 月に IEEE 本部に対して、関西セクションにおける会員増のための戦略をまとめパワーポイントにて提出した。
- (3) 7 月、11 月に各委員の組織における会員状況を定期的に配布し、これを会員数増加のための資料とした。
- (4) 7 月に renew を促すためのメールをメーリングリストを用いて全会

員に対して送付した。

- (5) 会員になるための手続き、及び送金について日本国内でも、より簡単に行えるような仕組みにするため検討を行ってきた。
- (6) MDC の企業委員のメンバーの交代（2名）があった。

#### **b. Nominations Committee**

- (1) 昨年と同様に、支部役員の方々と連携をとり、**Senior Member** の拡大をはじめとする、正会員や学生会員の拡大活動を行った。
- (2) 2012年1月1日付けで以下の2名が新 **Fellow** に昇格された。  
西尾章治郎氏（大阪大学）、奥乃 博氏（京都大学）。
- (3) 2012年3月1日締め切りの2013年 **Fellow Nomination** に際し、関西支部から数名の **Fellow** 推薦を行なった。
- (4) 2014年 **Fellow Nomination** に関して、関西支部内の現 **Fellow** に対し新 **Fellow** の推薦を依頼し、関西支部からの推薦者を決定することとした。また、**Senior Member** の方々へ **Fellow** 制度の案内を行い、昇格への関心の醸成を行った。推薦依頼があった方々に手続き情報をお送りし、関西支部からの **Fellow** 推薦準備を開始した。
- (5) **Fellow** 推薦のための手引きを関西支部ホームページに公開した。

#### **c. Student Activities Committee**

SAC 委員会では、昨年に引き続き、学生会員の増強、学生会員の活動支援、等の活動を行ってきた。

- (1) 既存6大学（大阪大学、京都大学、立命館大学、奈良先端科学技術大学院大学、兵庫県立大学、関西大学）の **Student Branch** を中心に、学生会員の増強、学生会員の活動支援、対外活動、**Student Branch** 間の情報交換の促進、等の活動を行った。また、同志社大学において **Student Branch** の設立に向けて昨年に引き続き検討が行われた。
- (2) **Membership Development Committee** と **Student Activities Committee** と合同で **Workshop** を開催（4月）。連携して会員の増強、**GOLD** 会員、女性会員を含めた活動支援、等の活動を行った。特に学生会員から正会員への移行について検討を行った。
- (3) **Student Branch** による自主的な活動としては、昨年までと同様に6大学合同で関西支部 **Student Branch** 交流会を企画、開催した。また、立命館大学 **IEEE Student Branch** で、例年開催している **English Presentation Competition** を10月12日に開催し、関西支部の他の **Student Branch** から参加者を得て、20件の発表、74名の参加者を

得た。優秀発表者に IEEE 関西支部 Student Activities Committee から表彰状を授与した。

- (4) 12月14日～15日に明治大学において開催された IEEE 学生ランチリーダーシップトレーニングワークショップに関西セクション傘下の6SBより学生を派遣した。
- (5) Award Committee と連携して IEEE 関西支部学生研究奨励賞を企画し、審査を行った。

#### d. Technical Program Committee

	日時	場所	講演者	参加者数 (IEEE 会員)	共催・協賛組織名
第67回	2012年 1月25日	TKP 大阪本町ビジネスセンター 5F カンファレンスルーム 5B	上田 修功 氏(日本電信電話株式会社 コミュニケーション科学基礎研究所 所長) 久間 和生 氏(三菱電機株式会社 執行役副社長 半導体・デバイス事業本部長)	54(29)	AC・Net (情報通信技術研究交流会)
第68回	2012年 3月16日	奈良県文化会館 2階小ホール (SICE 制御部門大会会場)	足立 修一 先生(慶應義塾大学 理工学部 物理情報工学科 教授)	80(36)	IEEE CSS Kansai Chapter
第69回	2012年 4月2日	京都大学百周年時計台記念館 国際交流ホール II (2階)	Prof. Tulay Adali (University of Maryland) Dr. Mike Schuster (Google)	82(43)	JST CREST 共生社会に向けた人間調和型情報技術の構築 IEEE SPS Kansai Chapter IEEE SPS Japan Chapter
第70回	2012年 4月3日	NTT 京阪奈ビル 大会議室(3階)	Dr. Anthony Vetro (IEEE Fellow, Group Manager, Multimedia, MERL) Dr. Petros T. Boufounos (MERL)	47(31)	NTT コミュニケーション科学基礎研究所
第71回	2012年 7月20日	大阪大学 情報科学研究科 A110 講義室	Prof. Kukjin Chun (Seoul National University, IEEE Region 10 Vice Chair for Membership Development)	19(15)	—
第72回	2012年 8月2日	京都大学工学部 3号館北棟2階 セミナー室	Deepak Mathur (IEEE Region 10 Humanitarian Technology Coordinator)	20(10)	IEEE 京都大学 SB

#### e. Awards Committee

2011年度に引き続き2012年「IEEE 関西支部 GOLD 賞」の募集を行った。本賞は2008年度から、学生会員、大学や研究所の若手研究員、企業の若手会員の3種類の表彰を行っている。今年度は10月19日に応募を締め切って、全体で2名の応募者があった。当委員会による選定の後、1名の受賞者を12月19日の支部理事会で決定した。

また、2012年「IEEE 関西支部学生研究奨励賞」の審査を、今年度も継続して SAC と合同で審査委員会を設立して行った。今年度は 10 月 12 日に応募を締め切ったところ、28 名の応募者があった。当委員会による選定の後、12 月 19 日の支部理事会で 7 名の受賞者を決定した。

なお、2012 年 GOLD 賞のメダル作成費と 2012 年学生研究奨励賞の賞状作成費ならびに副賞については Japan Council Section 支援費からの支援によっている。

#### **f. Chapter Operations Committee**

関西支部内の Chapter で活動状況について横断的に情報共有を行い、各 Chapter の活動をさらに活性化させる目的で活動している。Japan Council Chapter Operation 委員会と連携し、各 Chapter 活動報告による情報共有、Distinguished Lecturer 制度の説明、Japan Council の支部 Chapter 支援費の新ルールについて周知した。さらに、IEEE 本部へ行う報告や Chapter 維持条件の説明を通して、定常活動の維持について各 Chapter に再確認した。また、これまでに引続き関西支部での Chapter を支援するため、新設に必要な情報の提供、既存 Chapter との情報交換などを行ってきた。

#### **g. Life Members Affinity Group**

2011 年末に 6 名の申請人の署名を添えて申請した結果、2012 年 6 月に approve した旨の連絡が届いた。役員を選出を行い 12 月 19 日に住友クラブにて設立総会を開催し、役員承認、活動計画の審議を行った。引き続き記念講演会を開催し、JC と R10 の立場からの講演を頂いた。

### **5. Kansai Chapter 活動**

#### **a. EDS (Electron Devices Society) Kansai Chapter**

1 月 19 日には、IEDM2011 報告会を大阪大学中之島センターにて開催し、同会議の参加者にシリコンデバイス／プロセス関連及び化合物関連の技術情報についてご講演頂いた。

5 月 9 日～11 日には、IEEE SSCS 関西チャプターとの共催で国際会議である“2012 International Meeting for Future of Electron Devices, Kansai (IMFEDK 2012)”を関西大学 100 周年記念会館にて開催した。学生や若手研究者を中心に 152 名の方々に参加頂き、4 件の基調講演、3 件の招待講演、16 件の一般講演及び 45 件のポスター講演（ショートプレゼンテーション付き）を実施した。また、本会議に先立って“MTJ based

non volatile SRAM and low power non volatile logic-in-memory

architecture”と「有機 EL 技術の将来：光源とディスプレイ」に関するチュートリアル講演会を開催し、若手エンジニアや学生の方々に多数参加頂いた。

7月26日には、DL講演会及び技術講演会を開催し、白石賢二教授（筑波大学）に「界面物理学の新展開と次世代デバイス（産業）」と題して、葛原正明教授（福井大学）に「窒化物半導体トランジスタ技術の最新動向」と題して、それぞれご講演頂いた。

10月26日には、技術講演会としてはすでに定例となった関西コロキウム電子デバイスワークショップを大阪大学中之島センターにて開催した。当日は39名の研究者および学生に参加頂き、国際レベルの研究成果を日本語にて発表して頂き、活発な討論が行われた。

この他、EDS News Letter に活動成果を投稿し、2012年1月、4月、7月、10月の各号に記事が掲載された。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/eds/>

## **b. SSCS (Solid State Circuits Society) Kansai Chapter**

2012年5月9～11日にIEEE EDS Kansai Chapter と共催でIMFEDK2012を開催した。本講演会では152名を集めて活発な質疑応答が行われた。またSSCS分野の学生発表にIEEE SSCS Kansai Chapter IMFEDK Student Paper Award を贈呈し、若手LSI設計者に情報交換の場を提供した。

また、2012年5月25日、大阪にてSSCS技術講演会を主催した。IEEE SSCS Distinguished Lecturer の一人であるMohamad Sawan教授（モントリオール理工科大学）講演会を主催し、ご講演頂いた。この技術講演会では24名の参加者を集めて活発な質疑応答が行われた。

さらに2012年7月19日、大阪にてSSCS技術講演会を主催した。6月にハワイで行われたVLSI Symposium2012 報告会と題して、日本の研究機関から発表された評価の高い発表を、日本の聴講者向けに再度講演いただいた。さらに、IEEE SSCS Distinguished Lecturer の一人であるIntelのDr. Stefan Rusu氏に特別講演をいただいた。この技術講演会では39名の参加者を集めて活発な質疑応答が行われた。

また、2012年5月28日にIEICE主催のLSIとシステムのワークショップに共催した。本講演会では205名を集めて活発な質疑応答が行われた。またSSCS分野の学生発表にIEEE SSCS Kansai Chapter Student Paper Award を贈呈し、若手LSI設計者に情報交換の場を提供した。な

お、技術講演会の詳細は下記 URL に掲載している。

<http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/sscs/>

この他、集積回路研究会（1月、3月、4月、7月、8月、10月）、シリコンアナログ RF 研究会（3月、8月）、LSI とシステムのワークショップ（5月）などに協賛した。このように技術者及び若手設計者が多数集まるイベントに協賛することで、活動のアピールと会員獲得に努めた。

### **c. CASS (Circuits and Systems Society) Kansai Chapter**

2012 年は 3 件の DLP 講演会、5 件の技術講演会、2 件の協賛と 1 件の Administrative Meeting を行った。具体的には次のとおりである。

1) 2012 年 1 月 25 日に京都大学 吉田キャンパスにおいて、DLP 技術講演会「Digital Microfluidic Biochips: Towards Functional Diversity, More than Moore, and Cyberphysical Integration」を開催した。Electrical and Computer Engineering, Duke University の Prof. Krishnendu Chakrabarty にご講演いただき、46 名の参加者を得て、有益な技術・研究交流を行うことができた。

2) 2012 年 3 月 26 日に、京都大学 吉田キャンパスにおいて、DLP 技術講演会「Perceptual video coding」を開催した。EECS College, National Taiwan University の Prof. Homer H. Chen にご講演いただき、3 名の参加者ではあったが、とても質の高い講演と議論を行うことができた。

3) 2012 年 3 月 27 日に、大阪大学 豊中キャンパスにおいて、DLP 技術講演会「Computational imaging: Light field acquisition and image formation modeling」を開催した。3/26 に引き続き、EECS College, National Taiwan University の Prof. Homer H. Chen にご講演いただき、16 名の参加者を得て、活発なディスカッションを行うことができた。

4) 2012 年 5 月 30 日に、東京 機械振興会館で行われた Chapter Operation Committee Meeting の終了後に、Administrative Meeting を開催し、2012 年後半と 2013 年の活動について検討を行った。

5) 2012 年 7 月 2 日に京都リサーチパークにおいて、技術講演会「SKYACTIV テクノロジー誕生を支えたモデルベース開発」を開催した。マツダ株式会社の原田靖裕 氏にご講演いただき、60 名の参加者を得て、盛況な技術講演会となった。

6) 2012 年 7 月 3 日に京都リサーチパークにおいて、技術講演会「ノーマリーオフコンピューティングの実現へ向けて」を開催した。東京大学の中村宏 先生にご講演いただき、50 名の参加者を得て、活発な議論が行われた。



7) 2012年7月20日に大阪大学吹田キャンパスにおいて、IEEE Kansai Section 第71回技術講演会「Computational imaging: Light field acquisition and image formation modeling」を共催した。Seoul National UniversityのProf. Kukjin Chunにご講演いただき、19名の参加者を得て、有益な技術講演会が行われた。

8) 2012年7月30日～31日に淡路夢舞台国際会議場にて開催された第25回回路とシステムワークショップに協賛した。延べ174名の参加があった。

9) 2012年11月17日に京都大学吉田キャンパスで開催された第55回自動制御連合講演会に協賛した。

10) 2012年12月3日に京都大学吉田キャンパスにおいて、技術講演会を開催した。University of California, San DiegoのProf. Rajesh Guptaに「Combating and taming variability: The brave new world of under-designed computing machines」を、Karlsruhe Institute of TechnologyのProf. Joerg Henkelに「Cross-layer approaches for system-on-chip dependability」について講演いただいた。

11) 2012年12月10日に大阪大学豊中キャンパスにおいて、技術講演会「The State of the Art of Multiple-winners-take-all Networks: Formulations, Models, and Applications」を開催した。The Chinese University of Hong KongのProf. Jun Wangにご講演いただいた。

以上、最新技術動向に関する技術講演会の開催と、参加者の交流を通じて、活動のアピールと会員の獲得に努めた。その他、役員間で随時メール会議によって計画を練っている。なお、技術講演会の詳細は下記のURLに掲載している。

<http://www-ise2.ist.osaka-u.ac.jp/cas/>

#### **d. APS (Antennas and Propagation Society) Kansai Chapter**

昨年に引き続き、(1)関西圏におけるアンテナや無線通信技術に携わる若手技術者の育成を通して関西圏の産業振興に寄与すること、および(2)各種研究会・講演会活動を通して関西圏企業・大学の活性化を図ることを基本的なミッションとして活動するため、2月1日に役員会を開催して本年度の活動計画を立てた。10月中旬に学生会員の勧誘および英語発表技術の向上を目指したThe 4th IEEE AP-S Kansai Chapter Young Engineer Technical Meetingの開催を行った。また、10月12日にはキャンパスポート大阪にて、次世代の超高速ワイヤレス通信システムを支えるアンテナ・伝搬技術ワークショップを主催した。昨年度好評であった

澤谷邦男先生（東北大学）に再度ご登壇頂き、昨年度の続編となる「無線通信の高度化とアンテナ技術一応用編」をご講演いただいた。12月15日には MTT-S Kansai Chapter との合同若手技術交流会を開催し、関西電機メーカー等の若手技術者に大学院生を対象とした実際の研究開発活動の体験を講演していただいた。

<http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/aps/>

#### **e. COMS (Communications Society) Kansai Chapter**

2012年4月9日、大東市大阪産業大学において役員会を開催し、2012年度の活動計画について議論した。

9月10日には、常翔学園 大阪センター（大阪市北区梅田3-4-5 毎日インテシオ3F）において、光通信技術に関する技術講演会を COMS Kansai Chapter 主催で開催した。当日は本島邦明氏（三菱電機（株）NTT事業部 副事業部長）に「光アクセスネットワークの国際標準化動向と戦略について」の講演を頂いた。また、宮本 裕氏（NTT（株）未来ねっと研究所 上席特別研究員）に「大容量光ネットワークにおけるデジタル信号処理技術の動向と展望」と題して、ご講演を頂いた。参加者総数は31名であった。

11月13日常翔学園大阪センター（大阪市北区梅田）において、第2回役員会を開催し、2013年の体制および活動計画について議論を行った。

2012年12月20日に技術講演会を奈良先端科学技術大学院大学において COMS Kansai Chapter 主催により開催した。主として、学部4年生、大学院学生、若手研究者を対象として、FPGA を用いた無線通信システムのデザイン手法に関する講演を馬 子驥氏、石黒 剛大氏（奈良先端大）を講師として行った。

広報活動を活性化するため、facebook に COMS Kansai Chapter のページを作成した。

<http://www.facebook.com/IEEEComSocKansaiChapter>

その他、活動報告の詳細は以下の URL により行なっている。

<http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/coms/>

#### **f. CS (Computer Society) Kansai Chapter**

2012年3月14日(水)に、安島雄一郎氏（富士通株式会社 次世代テクニカルコンピューティング開発本部 システム開発統括部）を招いて、「スーパーコンピュータ「京」の仕組み」と題して、講演会を主催した。「京」は、独立行政法人理化学研究所と富士通が共同で開発したスーパーコン

コンピュータであり、圧倒的な規模・性能を誇る世界最高性能のスーパーコンピュータとして、科学技術の広範な分野において多用な研究等への活用が期待されている。本講演では、「京」のハードウェアの概要と仕組み（アーキテクチャ）について、特に、「京」のプロセッサとして、「京」のために科学技術計算向け機能の拡張と低消費電力化が施された

「SPARC64 VIIIfx」の特徴とそのアーキテクチャ、および、プロセッサ間の接続を行う新規開発の高性能インターコネクタとして、6次元のネットワーク・トポロジーにより、10万ノード級のスケラビリティと高可用性を両立した「Tofu」インターコネクタを中心に解説いただくとともに、将来のエクサスケールに向けた展望を述べていただいた。講演会では、46名（IEEE 会員：19名）の参加者を集めて活発な質疑応答が行われ、貴重な技術交流の場を持つことができた。

2012年9月6日（木）に、森健策氏（名古屋大学・情報連携統括本部・情報戦略室 教授）を招いて、“画像処理技術の医療支援への応用”と題して講演会を主催した。現在の医療の場において、欠くことのできない医療情報である CT や MRI に代表される画像情報では、人体の内部構造を非常に高精細に画像化可能であるが、その情報量自体も膨大であり、これらを効果的に利用可能な方法の開発が必要となる。そのため、パターン認識、コンピュータビジョン、コンピュータグラフィックスなど画像情報処理技術の利用が不可欠である。本講演では、画像処理技術の医療分野への応用、特に診断ならびに治療支援への応用について、解説いただき、その中でも、医療画像情報から自動的に病変を発見する技術、医療情報を基に手術を支援する技術を中心に、実際の臨床例を踏まえながら紹介していただいた。講演会では、48名（IEEE 会員：14名）の参加者を集めて活発な質疑応答が行われ、貴重な技術交流の場を持つことができた。

上記にあるとおり、業界で注目されている最先端技術についての講演会を主催し、関連技術者及び学生を多数集め、活動のアピールと会員獲得に務めた。

技術講演会の詳細は下記の URL に掲載している。

<http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/cs/>

#### **g. MTTS (Microwave Theory and Techniques Society) Kansai Chapter**

MTT-S Kansai Chapter では、今年度も4つのミッション(融合的産業の創出、電力ネットワーク要素技術の確立、シームレスな情報通信事業への貢献、融合的学際領域や新産業領域創出に対するプラットフォーム化)、

および対応する 8 つの戦略分野に焦点を当てて活動を行った。

技術講演会として、医療、計測、バイオテクノロジーなど幅広い分野への応用が期待されているテラヘルツ波の最新技術動向を紹介する「テラヘルツワークショップ」を 2 月 4 日、大阪大学豊中キャンパスにて開催した。講演者として萩行正憲教授（大阪大学）、尾辻泰一教授（東北大通研）、永妻忠夫教授（大阪大学）、平川一彦教授（東京大学生産技術研究所）、川瀬晃道教授（名古屋大学）をお招きし、メタマテリアル、デバイス、通信から物理、分光に至る幅広い分野におけるテラヘルツ波の技術動向と今後の展望をご紹介いただいた。参加者 88 名（うち会員 42 名、非会員 46 名）

5 月 10 日～11 日には、国際会議 **International Microwave Workshop Series (IWMS) on Innovative Wireless Power Transmission** を龍谷大学響都ホール（京都市）にて開催した。昨年度に引き続き京都エリアでの開催となり、国内外より多くの参加を得た。キーノートスピーカーとして **Prof. Yoichi Hori (University of Tokyo, Japan)**、**Dr. Kamil A. Grajski (Qualcomm, USA)**、**Prof. Luca Roselli (University of Perugia)** の 3 名の講師を招いた。また、テクニカルセッションでは優秀な発表論文 3 件に対して **IMWS-IWPT 2012 Best Paper Award** を贈った。（参加者 146 名、うち MTT-S 会員 55 名、非会員 91 名、学生 45 名）

6 月 16 日（土）には「第 5 回マイクロ波英語発表会」（主催）を立命館大学（草津市）にて開催した。これは、**GOLD Member, Student Member** による「若手技術委員会（WakaTe Committee）」が主体となり開催するもので、学生、および企業入社後数年の若手技術者に対して英語で研究発表を行う場を提供するものである。今回は 22 件の口頭発表があり、**Yuta Kubo 君（京都大学）、Keikgo Nakatani 君（龍谷大学）、Ryosuke Narasaki 君（京都大学）、Junko Fukuda 君（京都工芸繊維大学）** を優秀発表者として表彰した。

7 月 28 日（土）には「シミュレーション技術でマイクロ波を考えるワークショップ」を京都工芸繊維大学（京都市）にて開催した。これは、電磁界シミュレータを使用する立場だけではなく、電磁界シミュレータを開発する立場から、あるいは電磁界現象以外の物理現象をシミュレータに組み合わせる立場からマイクロ波技術を考え直すことをテーマに企画したもので、柴田随道氏（NTT）、番場成彦氏・岡田勉氏（村田製作所）、大石敏之氏・大塚浩志氏（三菱電機）、出口博之氏（同志社大学）にご講演をいただいた。参加者数 59 名（IEEE 会員 35 名、非会員 24 名）。

10 月 13 日（土）には、ワークショップ「高周波パワーデバイス高効率

化」を株式会社村田製作所（長岡京市）にて開催した。パワーデバイスの高周波化が進み、マイクロ波帯に近づきつつある昨今の状況を鑑み、マグネトロン、マイクロ波増幅器、レクテナなどのパワーデバイスの高効率化に詳しい大野泰夫氏（徳島大学）、小畑英幸氏（新日本無線）、細谷達也氏（村田製作所）、田村聡之氏（パナソニック）をお招きし、最新の研究開発動向についてご講演いただいた。参加者数 78 名（IEEE 会員 37 名，非会員 41 名）。以上の技術講演会は、関西におけるマイクロ波分野の主要な企業および大学からの委員で構成される「技術委員会（Technical Committee）」が中心となって企画・運営を行っている。

また、MTT-S Japan Chapter、Nagoya Chapterとの共催で、2012 IEEE MTT-S Japan Young Engineer Awardの受賞者1名の選定を行った。この賞は、指定のIEEE論文誌に掲載された原著論文の筆頭著者であり、かつマイクロ波の理論および技術の分野に貢献のあった38歳以下の若手研究者を表彰するものである。今年Masaya Tamura氏（パナソニック株式会社）を選出し、その授与式を11月29日にMicrowave Workshop and Exhibition (MWE) 2012の会場にて行った。

その他、電子情報通信学会マイクロ波研究会、URSI-C委員会、日本電磁波エネルギー応用学会、公開シンポジウム実行委員会、電子情報通信学会APMC国内委員会、京都工芸繊維大学 電子システム工学部門への協賛を行っている。

今後は、12月15日（土）に「若手技術交流会」を開催した。この交流会では、①企業の若手技術者数名に日ごろの企業における研究の実態や魅力についてご講演いただく場と、②学生と企業の若手研究者がポスター発表を行い、自由に意見交換を行う場を提供する新しい形態の技術交流会である。本年も AP-S Kansai Chapter との合同で開催した。このような交流会が IEEE 入会の契機となることも狙いとしている。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/mtts/>

#### **h. PHOS (Photonics Society (formerly LEOS)) Kansai Chapter**

1月26日に大阪大学にて IEEE Photonics Conference 2011 報告として、吉田氏（パナソニック）“6.3W InGaN Laser Diode Array with Highly Efficient Wide-Striped Emitters”、戸田教授（同志社大学）「IEEE Photonics Conference2011 報告」を講演いただいた。同会場で電子情報通信学会 LQE、OPE、EMT、PN 各研究会と共催研究会を実施した。その他、1月から11月までで計3件の Technical meeting を実施し、参加者は約40名から100名といずれも盛況であった。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/leos/index.html>

#### **i. SPS (Signal Processing Society) Kansai Chapter**

2012 年は IEEE 内外との連携により、4 件の共催講演会を開催するとともに、1 件の国際ワークショップの協賛と、2 件の学生賞を実施した。

1 件目の共催講演会として、3 月 24 日に、IEEE Student Branch at Kansai University および関西大学先端科学技術推進機構との共催により、IEEE Signal Processing Society Japan Chapter の協賛を受け、Nanyang Technological University の Assoc. Prof. Woon-Seng Gan に “Directional Audio Projection: How DSP techniques can be used to create directional audio beam?” と題して、関西大学千里山キャンパスにて講演を頂いた。指向性スピーカの基礎技術および応用技術について分かり易く説明して頂き、活発な議論が交わされた。本講演会には、関西地区在住の IEEE Signal Processing メンバーや大学院生を含む 25 名の聴講者が出席した。

2 件目の共催講演会として、4 月 2 日に、IEEE SPS Japan Chapter および IEEE Kansai Section との共催により、IEEE SPS の Distinguished Lecturer を努めている University of Maryland, Baltimore County の Prof. Tulay Adali に “ICA and IVA: Theory, Connections, and Applications” と題して、京都大学にて Distinguished Lecturer 講演を頂いた。独立成分分析および独立ベクトル分析について分かり易く説明して頂き、活発な議論が交わされた。本講演会には、関西地区在住の IEEE Signal Processing メンバーや多数の大学院生を含む 82 名の聴講者が出席し、IEEE Distinguished Lecturer による講演を聴くことが出来る絶好の機会となった。

3 件目の共催講演会として、6 月 8 日に、APSIPA との共催により、APSIPA の Distinguished Lecturer を務めている Indian Institute of Technology の Prof. Mrityunjoy Chakraborty に “Sparse Adaptive Filters: an Overview and Some New Results” と題して、京都大学にて講演を頂いた。スパース性を利用した適応フィルタに関して、分かり易く説明して頂き、活発な議論が交わされた。本講演会には、関西地区在住の IEEE Signal Processing メンバーや大学院生を含む 12 名の聴講者が出席した。

4 件目の共催講演会として、7 月 20 日に、IEEE Kansai Section および IEEE CAS Kansai Chapter との共催により、IEEE Region 10 Vice Chair を務めている Seoul National University の Prof. Kukjin Chun に “A Case Study of IT Convergence: Multi Mode/Band Transceiver” と題して、大阪大学にて講演を頂いた。最先端のワイヤレストランシーバー技術に

関して、分かりやすく説明して頂き、活発な議論が交わされた。本講演会には、関西地区在住の IEEE Signal Processing メンバーを含む 19 名の聴講者が出席した。

協賛活動としては、11 月 1~2 日に、システム制御情報学会の主催により、国士舘大学にて開催された The 44<sup>th</sup> ISCIE International Stochastic Symposium on Stochastic Systems Theory and Its Applications に協賛した。本シンポジウムでは、61 件の論文発表がなされ、84 名が参加した。

学生賞に関する活動として、IEEE SPS Japan Chapter との連名により、第 6 回 IEEE SPS Japan Student Demonstration Award を 9 月 7 日に、第 6 回 IEEE SPS Japan Student Paper Award を 11 月 29 日に実施し、各賞受賞者 1 名の計 2 名を表彰した。

<http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/sps/>

#### **j. CES (Consumer Electronics Society) Kansai Chapter**

長谷前 Chair が CE Society の Vice President に就任され、新国際会議 GCCE (Global Conference on Consumer Electrics) を立ち上げられた。その第 1 回 GCCE を 10 月 2 日から 5 日に幕張メッセ・国際会議場で開催した。これから毎年 10 月に IEEE 主催の国際会議として日本で開催し、CE 関西が GCCE のホスト Chapter をつとめる。今回は Award Session, Young Award Session, 2 つの Poster Session (50 件) を含む 3 4 セッションが開催され、発表論文は計 2 1 3 件。

また、10/2 にはサムスンエレクトロニクス専務のハン・カブス氏による招待講演、10/3 にスマートプロジェクト代表・加藤敏晴氏、ドコモエンジニアリング社長・辻村清行氏、山形大学・城戸淳二教授らによる基調講演を、10/4 に東京電機大学・安田浩教授による基調講演と NHK 技研・藤沢秀一氏らを迎えたシンポジウム「テレビの未来」を、10/5 には東京大学・坂村教授による基調講演と日本マイクロソフト CTO 加治佐俊一氏らを迎えたシンポジウム「家電の未来」を開催した。

[http://www.ceatec.com/2012/ja/conference/conference\\_detail.html?lectue\\_id=00G01](http://www.ceatec.com/2012/ja/conference/conference_detail.html?lectue_id=00G01)

<http://www.ceatec.com/2012/ja/conference/confTrackList.html?confkind=SP>

なお、論文賞は Excellent Paper Award (1st, 2nd, 3rd), Outstanding Paper Award, Student Paper Award (1st, 2nd, 3rd), Outstanding Poster Award があり、それぞれ授与した。

また、今年度は公益財団法人・電気科学技術奨励会から電気科学技術奨励学生賞が授与された。

また、2012年9月14日および10月4日に引き続き、12月14日開催の Chapter 役員会にて、2012年10月2日から5日に開催した GCCE での若手による優秀発表に対する若手論文賞（2名）を選出した。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/ces/>

#### **k. CSS (Control Systems Society) Kansai Chapter**

第12回計測自動制御学会制御部門大会 (2012/3/14-16)の併設行事として設立記念行事を実施した。

日時：2012年3月16日（金）16:00 開始, 17:30 終了

会場：奈良県文化会館、2階小ホール

祝辞：

IEEE Kansai Section Chair 片桐滋 教授（同志社大学）

IEEE Control Systems Society President-elect 山本裕教授（京都大学）

チュートリアル講演：

システム制御工学における「モデル」の役割

足立 修一 教授（慶應義塾大学）

また記念行事に先立って、同日 同会場で四役による役員会を開催した。さらに以下の行事に協賛した。

1. 計測自動制御学会関西支部・システム制御情報学会  
若手研究発表会 (2012/1/19)
2. 計測自動制御学会制御部門ワークショップ (2012/3/13)
3. 第12回計測自動制御学会制御部門大会 (2012/3/14-16)
4. システム制御情報学会・計測自動制御学会  
チュートリアル講座 2012 (2012/6/21)
5. 第44回システム制御情報学会ストカスティックシステム  
シンポジウム (2012/11/1-2)
6. 第55回自動制御連合講演会 (2012/11/17-18)

<http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/css/index.html>

#### **6. IEEE Technical Tour of Japan (マイルストーンツアー)**

2012年5月に開催された Technical Tour of Japan において Japan Council の Historical Committee との連携の下、関西支部会員の参加も得て、5/21（月）のシャープ（株）および奈良見学、京都での歓迎会、5/22（火）の蹴上発電所及び京都見学の両日において、27名のツアー参加者との交流を持った。歓迎会に於いては、片桐 Chair、矢野 Vice Chair、村瀬 S/T、中村 Past Chair の参加の下、参加者との有意義な交



流の場を持つことができた。

## 7. 協賛会議・後援

- ・ IMFEDK2012 (International Meeting for Future of Electron Devices, Kansai)  
日時：2012年5月9日～11日  
場所：関西大学100周年記念会館
- ・ 平成24年電気関係学会関西連合大会  
日時：2012年12月8日～9日  
場所：関西大学千里山キャンパス

## 8. Region 10 Meeting

2012年3月3日～4日の日程でインドのカルカッタにて開催された Region 10 Meeting には、関西支部より片桐 Chair が出席した。2011年度の決算報告と2012年度予算案報告、Membership Activities や Technical Activities 等に関する報告が行われ、いずれも承認された。また、GeoUnit に対する Reserve Sharing の詳細が説明され、これに対し IEEE 本部に再考するよう R10 として提言する案が採択された。さらに特に、IEEE が活動の柱と位置づけている Humanitarian Technology Activities の紹介がなされ、新会議シリーズである TENCON II の誘致が呼びかけられた。

2013年は、3月2日（土）～3日（日）にタイのチェンマイで開催される。

## 9. WIE 活動

活動の活性化を図るべく、JC WIE による関西でのイベントへの女性会員の積極的参加を促した。

## 10. 関西支部からの IEEE 本部役職就任

川本博久氏（元奈良先端科学技術大学院大学）

Member, IEEE History Committee

小山正樹教授（奈良先端科学技術大学院大学）

Member, IEEE Admission and Advancement Committee

白川功教授（兵庫県立大学）

Member, IEEE Honorary Membership Committee

Member, IEEE History Committee

(アルファベット順)

## 11. 情報の発信

### (1) 関西支部 Web ページ

Japan Council のサーバに設置されている下記ホームページでタイムリーに情報発信した。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/>

### (2) 電子メールの利用

総会、技術講演会、協賛会議、Fellow 推薦等の案内をタイムリーに、電子メール・関西支部ホームページを用いて広く公告するなど情報発信に努めた。

### (3) Newsletter

総会の様子や次期役員理事候補の公示、GOLD 賞、学生研究奨励賞の受賞者紹介をはじめ、関西支部に関する情報を Newsletter 形式で 4 月と 9 月に提供した。

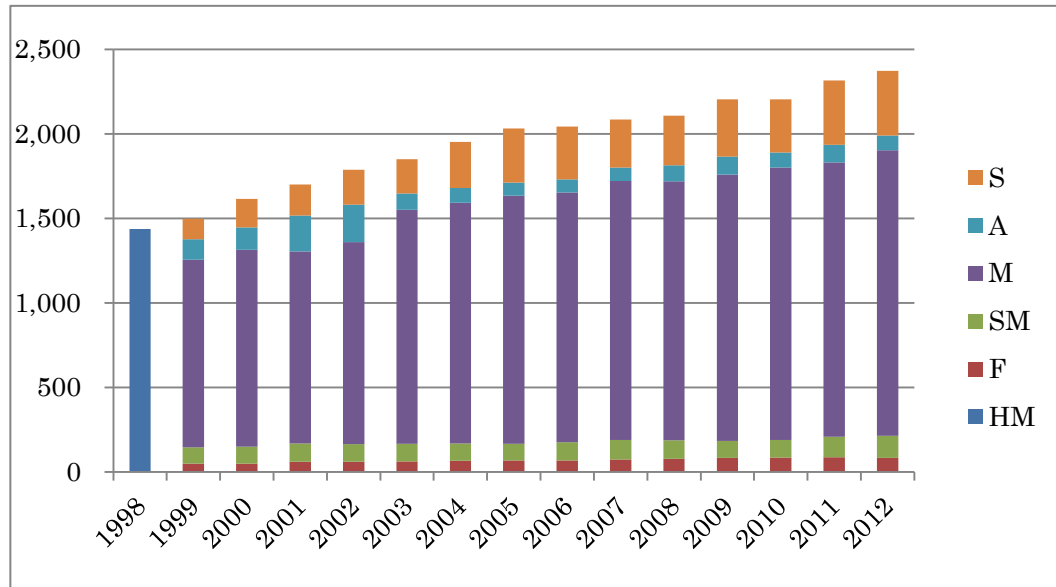
## IV 関西支部会員数

### 1. グレード別会員数

2012.12.14 現在

グレード	Grade Code	会員数
Honorary Member	H	0
Life Fellow	LF	44
Fellow	F	40
Life Senior Member	LS	10
Senior Member	SM	121
Pending Senior Member	PS	0
Life Member	LM	59
Member	M	1,629
Pending Member	PM	0
Life Associate	LA	0
Associate	AM	87
Graduate Student Member	GSM	314
Student Member	StM	68
Total		2,372
Affiliate of an IEEE Society	AF	144

上記集計では、**Active** 会員のみをカウントし、かつ、他のセクションへの移籍者等は含まない。2012 年 12 月において AR（1 年未満滞納者）は 326 名である。



1438	1498	1615	1700	1788	1850	1952	2031	2043	2085	2108	2204	2205	2316	2372
1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012

## 2. ソサイエティ別会員数

2012/12/14 現在

ソサイエティ	Code	会員数
Signal Processing	SP 001	164
Broadcast Technology	BT 002	9
Antennas and Propagation	AP 003	66
Circuits and Systems	CAS 004	133
Nuclear and Plasma Science	NPS 005	25
Vehicular Technology	VT 006	45
Reliability	R 007	0
Consumer Electronics	CE 008	36
Instrumentation and Measurement	IM 009	21
Aerospace and Electronic System	AES 010	15
Computational Intelligence	CIS 011	97
Information Theory	IT 012	51
Industrial Electronics	IE 013	52
Engineering Management	EM 014	0
Electron Devices	ED 015	197
Computer	C 016	477

Microwave Theory and Techniques	MTT 017	149
Engineering in Medicine and Biology	EMB 018	97
Communications	COM 019	249
Ultrasonics, Ferroelectronics and Frequency Control	UFFC 20	50
Components, Packaging and Manufacturing Technology	CPMT 21	26
Oceanic Engineering	OE 22	16
Control Systems	CS 23	106
Robotics and Automation	RA 24	141
Education	E 25	16
Professional Communication	PC 26	2
Electromagnetic Compatibility	EMC 27	23
System, Man and Cybernetics	SMC 28	102
Geoscience and Remote Sensing	GRS 29	20
Social Implications of Technology	SIT 30	6
Power Engineering	PE 31	49
Dielectrics and Electrical Insulation	DEI 32	10
Magnetics	MAG 33	37
Industry Applications	IA 34	44
Power Electronics	PEL 35	53
Photonics (formerly Lasers and Electro-Optics)	PHO 36	103
Solid-State Circuits	SSC 37	159
Intelligent Transportation Systems	ITSS 38	14
Product Safety Engineering	PSE 43	2
Total		2,862

## V 2013年 活動計画

### 1. 総会

2013年2月12日(火) 15:00~17:00の予定で、定例総会を実施する。

### 2. 技術講演会

Technical Program Committeeの企画により、講演会を実施する。

### 3. 理事会

第1回理事会 1月21日 住友ビルディング

2013年活動計画 ・2013年各 Committee の活動計画 ・2013年予算(案)

第2回理事会 2月12日 キャンパスプラザ京都

2013年総会について

2013年中に、さらに数回の理事会を開催する予定である。

### 4. 関西支部 GOLD 賞

2012年に引き続き、Award 受賞候補者を公募し、該当者を表彰する。

### 5. 関西支部学生研究奨励賞

2012年に引き続き、学生研究奨励賞受賞候補者を公募し、該当者を表彰する。

### 6. 関西支部メダル

2012年に引き続き、関西支部内の新 Senior Member に対して関西支部メダルを授与する。

### 7. WIE 活動

MDC、SAC のサポートを得て、WIE 活動の活性化を担いうる女性会員の発掘を目指す。

### 8. 各 Committee 活動計画

#### a. Membership Development Committee

- (1) 2013年も、MDC 委員会に参加する機関を通して、IEEE 活動の利点を広く周知し、新卒者の学生会員から正会員への移行をスムーズに行わせるとともに、Senior Member への Upgrade を推進することを活動の

中心とする。また、SAC と連携し、大学院生を中心とした学生会員の増加に力を入れる。

- (2) 学会や研究会で IEEE の宣伝を行うために、ポスターやパンフレットを入手して各委員に配布する。
- (3) 各委員の組織における会員状況を定期的に配布する事で、会員数増加のための資料としてもらう。
- (4) 学生の卒業時、及び 6 月頃に renew を促すためのメールをメーリングリストを通じて全会員に送付する。
- (5) Senior member 増加のため upgrade のためのスキームを構築する。
- (6) 会員になるための手続き、及び送金について、日本国内でも、より簡単に行えるような仕組みにするための検討を行っていく。

#### **b. Nominations Committee**

2012 年活動と同様に、Membership Development Committee と共同して Senior Member だけではなく、正員、学生員の拡大をも図る。

2014 年 Fellow Nomination に向けて Fellow 候補者をできるだけ多く推薦する。推薦手順は 2012 年活動と同一の予定。

Senior Member に対し Fellow 制度への関心の醸成を行う。

#### **c. Student Activities Committee**

##### **(1) Student Branch の設立**

昨年に引き続き、学生会員の勧誘を進め、Student Branch の設立に向け努力を継続する。既設の大阪大学、立命館大学、京都大学、奈良先端科学技術大学院大学、兵庫県立大学、関西大学、各 Branch からの支援で、同志社大学、神戸大学、関西学院大学等を対象に Student Branch の設立を目指す。（同志社大学は 2013 年 1 月 17 日に承認された。）

##### **(2) 学生会員活動の活発化**

学生を対象とした講演会、見学会、IEEE 活動説明会を兼ねたイベントを企画し、学生会員の一層の増加を図る。既設の 7 大学 Student Branch（新設の同志社大学を含む）の協力により、Student Branch が設置されていない大学に対しても、学生会員への積極的なサービス提供ならびに会員増強のプロモーションを図る。関西支部の 7 大学 Student Branch を中心に、交流会を引き続き開催し、Student Branch 間の交流を深める。

##### **(3) Affinity Group 設立準備への協力**

関西支部で検討されている GOLD ならびに WIE の Affinity Group

設立準備に関して、各 Student Branch 所属の GOLD 会員ならびに女性会員と密接に連携しつつ尽力する。

(4) 表彰および研究奨励

2004 年から開始した IEEE 関西支部学生研究奨励賞を (Awards Committee と共同する形で) 継続して企画し、優れた英文論文を発表した学生を表彰し、学生会員の研究を奨励する。また、受賞者が受賞内容について講演する機会を設けて、更なる学生会員の活動の活性化を目指す。

(5) 他支部の学生活動との連携

国内に設立されている他の 8 支部の学生活動との情報交換、連携により関西支部における学生会員活動のより一層の深化を図る。

**d. Technical Program Committee**

2012 年と同様、講演会の開催を主たる活動とする。2013 年も 5 回以上の企画・開催を目指す。従来から継続している、大阪・京都・神戸地区での講演会の開催、会員からの講演会の提案受付に加え、他団体との共催などにも積極的に取り組む。

**e. Awards Committee**

2012 年に引き続き、若手会員の増強施策としての「IEEE 関西支部 GOLD 賞」の募集・選定作業、ならびに学生会員の増強施策としての「IEEE 関西支部学生研究奨励賞」募集のより一層の活性化と選定作業を継続して行う。

また、中長期的視野で学生会員や若手会員のさらなる増強をめざして、予算措置を視野に入れながら新企画について検討を行う。

**f. Chapter Operations Committee**

関西支部内の Chapter で活動状況について横断的に情報共有を行い、各 Chapter の活動をさらに活性化させる。具体的には、Japan Council Chapter Operation Committee と連携して、各 Chapter 活動報告による情報共有、Distinguished Lecturer 制度の説明、Japan Council の支部 Chapter 支援費の説明などを行う。さらに、IEEE 本部へ行う報告や Chapter 維持条件の説明を通して、定常活動の維持について各 Chapter に再確認する。また、これまでに引続き関西支部での Chapter を支援するため、新設に必要な情報の提供、既存 Chapter との情報交換などを行う。他 Section との合同 Chapter 設立についても積極的に推進する。



### **g. Life Members Affinity Group**

2013 年は年間活動初年度として、2 月 12 日（火）に年次総会を開催する。関西支部 Technical Program Committee や日本カウンスル History Committee と連携して講演会を開催する。また、「Kansai-LMAG Newsletter」を発行しホームページに掲載するとともに電子メールにて案内する。

## **9. Kansai Chapter 活動計画**

### **a. EDS (Electron Devices Society) Kansai Chapter**

2013年も前年度に引き続き、国際会議、技術講演会を中心に積極的に活動を展開する。関西発の国際会議である“2013 International Meeting for Future of Electron Devices, Kansai (IMFEDK 2013)”は、6月5日～6日に関西大学100周年記念館において開催予定であり、特に関西地区の大学の学生の加入推進のため、Student Poster Paper Sessionの一層の充実を図る予定である。

関西に職場住所を持つ企業・大学・公共機関の投稿した論文の中から13件～15件程度の優れた論文を抽出してご講演頂く関西コロキウム電子デバイスワークショップも10月に開催の予定である。また、デバイスの最新研究開発動向を知る上で重要な国際学会であるIEDMの報告会は2013年も1月に常翔学園大阪センターにて開催する予定である。日本国内のDistinguished Lecturerを招いての技術講演会（DL Meeting）も開催する予定である。

この他、関西地区で開催される各種会議・研究会にも積極的に協賛し、引き続き会員獲得にも努めていく計画である。

### **b. SSCS (Solid State Circuits Society) Kansai Chapter**

2013 年も引き続き技術講演会を中心に活動を展開し、学生や若手研究者を主な対象とした質の高い講演と技術情報の提供を行い、会員獲得につなげることを目標とする。6 月頃と 11 月頃に技術講演会を開催し、国内外より著名な VLSI 設計関連の技術者を招く予定である。また、関西地区等で開催される各種研究会、ワークショップにも積極的に協賛するとともに、協賛金と Award を出し、会員獲得に努める計画である。

### **c. CASS (Circuits and Systems Society) Kansai Chapter**

2013 年も 2012 年と同様に、DLP 講演会や主催・共催の技術講演会を

中心に活動し、学生や若手研究者を主な対象とした質の高い講演と技術情報の提供を行い、会員獲得につなげることを目標とする。特に、著名な国外研究者が集まる国際会議やプログラム委員会の開催に合わせて、講演会を開催することを検討する。また、関西地区で開催される各種研究会、ワークショップと共催、あるいは、協賛し、学会活動への貢献と会員獲得に努める計画である。

#### **d. APS (Antennas and Propagation Society) Kansai Chapter**

昨年に引き続き、(1)関西圏におけるアンテナや無線通信技術に携わる若手技術者の育成を通して関西圏の産業振興に寄与すること、および (2) 各種研究会・講演会活動を通して関西圏企業・大学の活性化を図ることを基本的なミッションとして活動することを予定している。

#### **e. COMS (Communications Society) Kansai Chapter**

技術講演会を中心に活動を展開し、学生および若手研究者を主な対象として質の高い講演および技術情報の提供を行い、会員獲得につなげることを目標とする。2013年2月には、Chungbuk National University の Prof. Heung-Gyoon Ryu 教授を招き、技術講演会を COMS Kansai Chapter の主催で開催する予定である。さらに9月を目処に技術講演会を開催し、通信関連の若手研究者を中心に講演をいただく予定である。さらに、2013年度は、大学院学生向けに交流会、英語研究発表会を企画し、会員獲得に努める。

#### **f. CS (Computer Society) Kansai Chapter**

2013年も技術講演会を中心に活動し、学生や若手研究者を主な対象とした質の高い講演と技術情報の提供を行い、会員獲得につなげることを目標とする。

著名な国外研究者が集まる学会の開催に合わせて、講演会を開催することを検討している。また、関西地区で開催される各種研究会、ワークショップにも積極的に協賛し、会員獲得に努める計画である。

#### **g. MTTTS (Microwave Theory and Techniques Society) Kansai Chapter**

2013年も策定したミッションに基づいた技術講演会、若手技術者交流会、英語発表会を中心に活動を行う予定である。また、JapanおよびNagoya ChapterとともにFellowおよびSenior Memberへの昇格候補者支援を引き続き行うとともに関西地区で開催される各種研究会、ワークショップを積

極的に共催／協賛し、学会活動への貢献と会員獲得に努める計画である。

#### **h. PHOS (Photonics Society (formerly LEOS)) Kansai Chapter**

2013年は4回以上の技術講演会の企画・開催を目指す。2013年度の皮切りとして例年通り1月24日～25日に電子情報通信学会のLQE/OPE/EMT/PN合同研究会（大阪大）と併催の形で森田氏（浜ホト）、伊東先生（大阪大）によるInternational Semiconductor Laser Conference (ISLC) 2012報告、他が決定している。

#### **i. SPS (Signal Processing Society) Kansai Chapter**

2013年も講演会の開催を中心とする活動を展開し、会員の学識、および知見の向上を図る。昨年と同様に、IEEE SPS Japan Chapterとの連名で2件の学生賞を実施するとともに、学生の行事への参加を積極的に推進し、新しい会員の獲得に努める。Signal Processing Societyは、対象が基礎から応用まで広範囲に及び、特に基礎部門については、異分野との交流により成果を上げられる話題も少なくないことから、これまで以上に他の学会や研究会との積極的な連携を図り、共催、協賛での行事開催に取り組む。

#### **j. CES (Consumer Electronics Society) Kansai Chapter**

2012年に引き続き、CEATEC開催時にGCCE（Global Conference on Consumer Electrics）を主催する。第1回GCCEの成功に続き、論文内容の向上と投稿論文数および参加者を更に増やすために、国内の他学会（映像情報メディア学会コンスーマエレクトロニクス研究会、画像電子学会スマートディスプレイ研究会、映像情報メディア学会コンシューマエレクトロニクス研究会等）との連携を深め協賛していただけるように活動を進めていく。具体的には、電子情報通信学会/磁気記録・情報ストレージ研究会で磁気記録・光記録・あるいはそれらの応用で **Special Session** を立ち上げていただく等を依頼して実現していく予定である。

また他学会との連携の一環として、映像情報メディア学会コンスーマエレクトロニクス研究会および画像電子学会と併催で3月に研究会を開催する予定である。

以下に、2013年度の活動計画をまとめる。

3月：講演会・研究会（映像情報メディア学会コンスーマエレクトロニクス研究会との併催・京都）、終了後に役員会

7月：GCCE21013 の Paper Select Meeting、終了後に役員会

10月：国際会議GCCE2013主催、会期中に役員会

12月：講演会・研究会、終了後に役員会

#### **k. CSS (Control Systems Society) Kansai Chapter**

以下の行事を協賛予定である（依頼中を含む）。

1. 計測自動制御学会関西支部・システム制御情報学会 若手研究発表会（2013/1/18）
2. 第13回計測自動制御学会制御部門大会（2013/3/5-8）
3. 第56回自動制御連合講演会（詳細未定）

#### **10. 協賛会議（2013年1月31日現在予定分、受付順）**

- ・ IMFEDK2013

(International Meeting for Future of Electron Devices, Kansai)

日時：2013年6月5日（水）～6日（木）

場所：関西大学100周年記念会館

- ・ 社会起業―復興・再生への新しい展開に向けて―

日時：2013年4月23日（火）

場所：ヒルトン大阪（予定）

#### **11. Region 10 Meeting**

2013年3月2日（土）～3日（日）の日程でタイのチェンマイで開催される Region 10 Meeting には、関西支部より例年通り参加し、R10の活動報告と活動計画などの情報入手と交換に努める。

#### **12. R10 Humanitarian Technologies Conference 2013**

Region10 から、2013年8月の Humanitarian Technologies Conference の日本での開催の検討要請があり、JC で前向きに検討されている。関西支部も神戸淡路大震災の経験などを踏まえ、共催支部として参加する予定である。

## VI 2012年 会計報告

### 収入の部

予算案@77 円/\$ 実績 (単位:円)

◆IEEE Entity 間勘定	4,103,384	4,360,579		
・Section Rebate (IEEE 本部より)	984,895	971,970	\$12,183.27@78.26 円/\$	6/7, 賞状代込
・Section Assessment 2011 前期(同上)	2,809,720	3,005,151	\$37,484.74@80.17 円/\$	4/24
・Section Assessment 2011 後期(同上)	88,269	106,575	\$1378.72@77.3 円/\$	10/9
・Student Branch Rebate		56,383	\$686@82.19/\$	3/14
・監査費用支援金	220,500	220,500	本部より返還(外部監査費代)	5/31
◆その他	883,200	801,855		
・Section 支援金(GOLD Award 楯代)	163,800	112,455	JC より(2011 申請分)	4/13
・Section 支援金(学生研究奨励賞代)	352,000	352,000	JC より(2011 申請分)	4/13
・Section 支援金(関西支部メダル代補助)	87,400	87,400	JC より(2011 申請分)	4/13
・Section 支援金(WIE)	100,000	0		
・Section 支援金(Student Branch 支援費)	50,000	20,000	JC より(2012 申請分)	11/22
・懇親会費徴収	130,000	210,000	総会懇親会	2/14,12,19
・TTJ 歓迎会会費徴収	0	20,000		5/23
◆利息		202	112,90	2/21,8/19
◆2011 年からの繰越金	1,110,908	1,110,908		
合計	6,097,492	6,273,544		

Rebate 内訳{\$2,000+\$4×(Fellow, Senior 会員数=207) + \$3×(Member, Associate, Student 会員数=2,070)+\$1.5×(Affiliate 会員数=153)+\$200×(Chapter 数=9)}×1.10+\$300(Chapter Bonus: CAS,MTTS,PHOS,SSCS)+\$200(Section Bonus)

### 支出の部

予算案 実績 (単位:円)

◆IEEE Entity 間勘定	3,070,532	3,343,542		
・Japan Council 拠出金	2,894,972	3,108,726	3,003,651+:105,075	5/9,10/21
・Chapter Rebate	175,560	178,433	(\$220×9+\$75×4 @78.26)	6/19
・Student Branch Rebate		56,383	5 大学 SB へ	4/5
◆会合・AWARD 費	1,619,200	1,502,692		
・総会費	310,000	333,002	懇親会,資料印刷,幕,2013 会場	2月、11月
・講演会	90,000	112,580	講師謝礼	1/25,3/16,
・理事会費	200,000	231,747	飲食代	1,5,6,9,12
・Committee 会合費	250,000	191,400	MDC/SAC2 回, TTJ 歓迎	5/11,11/7,
・GOLD Award 費	163,800	112,455	楯代	2/14
・学生研究奨励費	368,000	378,508	賞金(12 人),	2/14,6/7
・支部メダル費	87,400	87,400	造幣局	1/6
・Student Branch 支援費	50,000	55,600	立命館大 EPC	10/4
・WIE 支援費	100,000	0		
◆事務経費	262,500	249,980		

・外部監査費	220,500	220,500	本部からの返金で相殺	5/9
・事務用品費	2,000	0		
・旅費	20,000	10,920	学生研究奨励賞交通費支給	2/14
・通信費	20,000	18,560	郵送費、宅急便等	
◆雑費	25,000	16,256	為替手数料, 振込手数料等	
◆2013年への繰越	1,120,260	1,161,074		
合計	6,097,492	6,273,544		

## VII 2013年 予算 (案)

### 収入の部

(単位：円)

◆IEEE Entity 間勘定	4,485,723	
・Section Rebate (IEEE 本部より)	1,147,220	2012/12 月会員数を元に計算
・Section Assessment 2013 前期(同上)	3,186,203	2012 実績\$を元に換算
・Section Assessment 2013 後期(同上)	117,191	2012 実績\$を元に換算
・LMAG2012 費用	35,109	\$413.05 2012 設立総会費用
◆その他	506,400	
・Section 支援金 (GOLD Award メダル代)	26,400	JC より(2012 年 11 月申請分) (3 個)
・Section 支援金 (学生研究奨励賞代)	242,000	JC より(2012 年 11 月申請分)(11 名)
・Section 支援金 (関西支部メダル代補助)	88,000	JC より(2012 年 11 月申請分)(10 個)
・Section 支援金 (WIE)	0	
・Section 支援金 (Student Branch 支援費)	20,000	2012 同額
・懇親会費徴収	130,000	総会懇親会(5000 円×26 名想定)
◆2012年からの繰越金	1,161,074	
合計	6,153,197	

85 円/\$として計算

Rebate 内訳 { \$2,000 + \$4 × (Fellow, Senior 会員数 = 215) + \$3 × (Member, Associate, Student 会員数 = 2,157) + \$1.5 × (Affiliate 会員数 = 144) + \$200 × (Chapter 数 = 11) } × 1.10 + \$375 (Chapter Bonus: EDS, SSCS, CASS, MTTs, CSS) + \$200 (Section Bonus) ※会員数は、2012 年 12 月 14 日現在

## 支出の部

(単位：円)

◆IEEE Entity 間勘定	3,519,269	
・Japan Council 拠出金	3,300,394	上記入金-1500 円×2
・Chapter Rebate	218,875	(\$220×11+\$75×5)=\$2,575
◆会合・AWARD 費	1,227,400	
・総会費	250,000	資料代、懇親会費など
・講演会	90,000	3 名分
・理事会費	200,000	会場代、飲食代 6 回
・Committee 会合費	250,000	MDC/SAC2 回、COC 等
・GOLD Award 費	17,217	メダル代(1 人)
・学生研究奨励費	154,000	賞金、賞状代(7 人)
・支部メダル費	88,000	造幣局(10 個)
・Student Branch 支援費	55,000	立命館大 EPC
・WIE 支援費	0	
◆事務経費	42,000	
・外部監査費	0	外部監査不要
・事務用品費	2,000	ファイル等
・旅費	20,000	学生研究奨励賞交通費補助
・通信費	20,000	郵送費、宅急便等
◆雑費	25,000	為替手数料、振込手数料など
◆2014 年への繰越	1,462,711	
合 計	6,153,197	

85 円/\$として計算

## VIII 関西支部 BYLAWS 修正箇所

Regional Activities Board (RAB) が廃止され、Member and Geographic Activities (MGA) Operations Board に再編されたことに伴い、該当部分を修正し、合わせて軽微なミスを修正する。

- ・ ~~Regional Activities Board (RAB)~~ -> Member and Geographic Activities (MGA) Board
- ・ the end-of-term date of ~~the Committee end-of-term date of~~ (ARTICLE III - Section 3)
- ・ request of ~~an~~ three members of the Section Executive Committee. (ARTICLE IV - Section 4)

## IX 受賞者

### IEEE 関西支部 GOLD 賞受賞者

計 1 名 (敬称略)

肥後 芳樹 (大阪大学)

### IEEE 関西支部学生研究奨励賞受賞者

計 7 名 (アルファベット順、敬称略)

堀田 圭祐 (大阪大学)  
岩居 健太 (関西大学)  
片山 健太朗 (京都大学)  
川島 潤也 (京都大学)  
久米 里奈 (大阪府立大学)  
西澤 真一 (京都大学)  
岡田 雅司 (大阪大学)

### IEEE 関西支部 メダル受賞者

計 11 名 (アルファベット順、敬称略)

荒木 章子 (日本電信電話)  
井戸 純 (三菱電機)  
加藤 嘉明 (三菱電機)  
国清 辰也 (ルネサス エレクトロニクス)  
林 海 (Lin Hai) (大阪府立大学)  
茂庭 昌弘 (ルネサス エレクトロニクス)  
中村 哲 (奈良先端科学技術大学院大学)  
小野寺 秀俊 (京都大学)  
大塚 功 (三菱電機)  
田村 昌也 (パナソニック)  
山田 武士 (日本電信電話)



## X Bylaws

### IEEE KANSAI SECTION BYLAWS

In all instances, the Institute of Electrical and Electronics Engineers (IEEE) Bylaws, Constitution, Policy and Procedures manual, and the Member and Geographic Activities (MGA) Operations Manual will prevail when there is a conflict between these documents and Section Bylaws.

#### **ARTICLE I --- Name and Territory**

##### Section 1

This organization shall be known as the Kansai Section of the IEEE.

##### Section 2

The territory of the Kansai Section, as approved by the MGA Board, includes the following:

Osaka, Kyoto, Hyogo, Nara, Shiga, and Wakayama prefectures, JAPAN

(The districts with the postal codes starting with 52 through 67 inclusive.)

#### **ARTICLE II --- Officers**

##### Section 1

The elected officers of the Kansai Section shall be the 4 Executive officers: Chair, Vice Chair, Secretary & Treasurer. The offices of the Secretary and Treasurer may be combined.

##### Section 2

The terms of office of the elected officers shall be for 2 years.

##### Section 3

Terms of office will begin on January 1 but, in any case, the outgoing officers will continue until their successors are duly elected and take office. The consecutive period of service shall not exceed two years.

##### Section 4

Any vacancy occurring during the year shall be filled by a majority vote of the Section Executive Committee.

#### **ARTICLE III --- Standing Committee**

##### Section 1

The Standing Committees of the Section will be as follows:

- Membership Development Committee
- Nominations Committee
- Student Activities Committee

- Technical Program Committee
- Awards Committee
- Chapter Operations Committee

#### Section 2

The Chair of the Standing Committees will be appointed by the Section Chair with the approval of the Section Executive Committee, and their terms will expire on the end-of-term date of the Section Chair.

#### Section3

Each Committee Chair will appoint his/her Committee members, with the approval of the Section Executive Committee, and their terms will expire on the end-of-term date of the Committee Chairs'.

#### Section4

Duties of the Standing Committees will be as generally described in the IEEE Section Operations Guide.

### **ARTICLE IV --- Management**

#### Section 1

The management of the Section shall be by the Section Executive Committee which shall consist of the elected officers, the Past Section Chair and the following:

- Standing Committee Chairs,
- representatives of Chapters,
- such other members appointed by the Section Executive Committee,
- and such other members appointed by the Section Chairman.

The number of voting members elected must be at least one greater than those appointed.

#### Section 2

A majority of the Section Executive Committee shall constitute a quorum, provided that delegates elected by the Section membership are at least one greater in number than delegates appointed to the Committee.

#### Section 3

A majority of the Section Executive Committee present shall be necessary in the conduct of its business.

#### Section 4

Meetings of the Section Executive Committee ordinarily will be held at least twice a year and will be called by the Section Chair or by a request of three members of the Section Executive Committee.

#### Section 5

The fiscal year of the Section shall be the calendar year.

## **ARTICLE V --- Nomination and Election of Officers**

### Section 1

A nominating Committee consisting of three members, not then officers of the Section, shall be appointed by the Section Chair with the approval of the Section Executive Committee.

### Section 2

The nominations of the Nominating Committee will be announced to the Section membership and, following this, a minimum of 28 days allowed for additional nominations by petition. To be valid, the petition must be signed by 2% or more voting membership.

### Section 3

If only one nomination is made for each office, the election will be made at the Annual Meeting. If additional nominations are made, election will be by ballot, mailed to the membership with the vote counted by a Tellers Committee appointed by the Section Chair.

### Section 4

The timetable for this procedure is as follows:

Appointment of Nominating Committee:	by August 31
Announcement of Nominations:	by September 30
Close nominations by petition:	by October 31
Hold election:	by November 30

### Section 5

A plurality of the votes cast shall be necessary for election.

## **ARTICLE VI --- Business Meeting**

### Section 1

In order to transact business at a Section meeting, at least 3 members must be present to constitute a quorum.

## **ARTICLE VII --- Finances**

### Section 1

All expenditures of Section funds must be approved by Section Treasurer or Chair.

### Section 2

Without prior authorization of the IEEE Executive Committee, Section funds can be used only for normal operations of the Section.

### Section 3

The treasurer shall be authorized to draw funds as approved by the Section Executive

Committee.

## **ARTICLE VIII --- Amendments**

### Section 1

Proposals for amendments to these Bylaws may originate in the Section Executive Committee or by a petition signed by 20% or more voting members.

### Section 2

Amendments to or revocation of these Bylaws shall be in accordance with the IEEE Bylaws, Policies, and the MGA Operations Manual.

2013 年 IEEE 関西支部連絡先

〒619-0237 京都府相楽郡精華町光台 2-4  
日本電信電話株式会社  
NTT コミュニケーション科学基礎研究所 内  
IEEE 関西支部事務局

e-mail : [sec-kansai@ieee-jp.org](mailto:sec-kansai@ieee-jp.org)  
Web URL : <http://ewh.ieee.org/r10/kansai/>  
<http://www.ieee-jp.org/section/kansai/>